

CASBEE® 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE京都-新築（2015年版）|使用評価ソフト：CASBEE京都-新築2015（v.1.0）

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京都大学(桂)図書館(仮称)	階数	地上2F、地下2F
建設地	京都市西京区京都大学桂2(一部)、3	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住専、法22条の地域	平均居住人員	100人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,552時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年7月 予定	評価の実施日	2017年12月13日
敷地面積	5,208㎡	作成者	安井建築設計事務所、テクノ工営
建築面積	1,835㎡	確認日	2017年12月13日
延床面積	4,552㎡	確認者	京都大学



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.9

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
 ①参照値 100%
 ②建築物の取組み 75%
 ③上記+②以外の 75%
 ④上記+ 75%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
 Q1 室内環境: 4
 Q3 室外環境(敷地内): 3
 LR1 エネルギー: 3
 LR2 資源・マテリアル: 3
 LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.4

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.6

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合 京都大学桂団地構内に計画された図書館である。 耐用性の長い材料(内装材・配管材)の採用や、自然エネルギーや高効率な設備機器の導入による環境負荷の低減に配慮した建物である。 また地域産木材を積極的に採用する事で温暖化や森林破壊など環境問題に配慮を行っている。		その他
Q1 室内環境 ・全面的にF☆☆☆☆の建築材料を採用し、空気質環境に配慮している。	Q2 サービス性能 ・耐用性の長い内装材・配管材の採用により、建物の持続性に配慮している。 ・防汚性の高い内装材を採用し、建物の維持管理機能に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) ・燃焼設備を設けない事で、敷地内歩行者空間等の温暖環境に配慮している。
LR1 エネルギー ・高効率な設備機器を採用し、エネルギーの効率的利用に配慮している。 ・自然エネルギー(トップライト)を利用している。	LR2 資源・マテリアル ・節水器具の採用や井水の利用等により水資源の保護に配慮している。 ・リサイクル材を使用し、資源の再利用に配慮している。	LR3 敷地外環境 ・燃焼設備は設けておらず、大気汚染防止に配慮している。 ・屋外照明の計画は、周囲への漏れ光に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される